

石原良純

豊臣秀吉の家臣

福島正則

ふくしま・まさのり

母が秀吉の叔母で、幼少より秀吉に仕える。数々の武勇で秀吉の天下取りに貢献し、「賤ヶ岳の戦い」では、七本槍として名を馳せる。豊臣政権成立後も主要な合戦に参加し、伊予今治10万石城主、次いで尾張清洲24万石城主となる。加藤清正の盟友で、また、尾張

派の重鎮大名として北政所を強く崇拝していた。秀吉の死後、その遺命に背いて徳川家と婚姻関係を結び、反石田三成派の急先鋒となる。慶長5（1600）年、家康による会津の上杉討伐に従軍。三成挙兵の報を受けるとすぐさま東軍に加わり、主力として戦った。「関

ヶ原の戦い」の軍功により安芸と備後2か国を得て、広島城主に栄転。一方で、家康と豊臣秀頼の会見を取り持つなど、豊臣家の威光存続に努める。晩年は、豊臣家恩顧の大名ということで江戸幕府に疎まれ、微罪に問われて蟄居、ほどなく病没した。

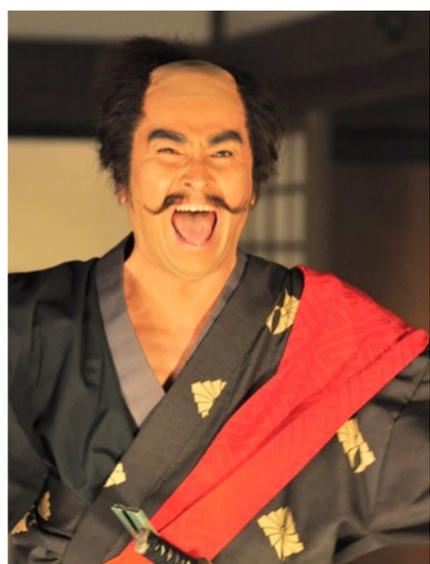
よくも悪くも 二心のない男だと思おう

福島正則は、直江兼統と石田三成より一歳年下なんです。ということ、妻夫木聡君、小栗旬君より若い役。そりゃあうれいしなと思っただけ。ツラ合わせしたら、髪質が化け猫みたいにゴワゴワで、ああ、こういう役回りかと（笑）。収録初日から酒席で騒ぐシーンがあり、お涼役の木村佳乃さんに投げ飛ばされました。ワイヤーアクションでド派手に。

お涼の自由人ぶりがうかがえる一幕でしたが、同時に、福島の裏表のない性格を表すシーンにも感じられました。豊臣秀吉恩顧の家臣で、の

ちに徳川家康と結んで石田三成と対峙した人物ですから、幾多の政治的駆け引きをしたはず。ただ、「天地人」では、よくも悪くも二心のない男。「上杉謙信にあらがれていた」というセリフなども、兼統を試す意図はなく、本心で言っていると受け取ってもらえるといいなと思います。福島については、僕の中にひとつの映像がありましたね。昔、NHKの歴史番組何かで見たのですが、福島が徳川政権下で罪に問われ、夕日に染まる城を去るシーンを鮮明に記憶しているんです。「関ヶ原の戦

出しつつ吸収するという感じですね。俳優として届けられる何かを持つためには、ふだんの吸収がとても大事だと考えています。スタッフや共演者に恵まれた「天地人」の現場もすばらしい吸収の場です。本番では、蓄えたエネルギーを存分に出し、福島正則の生き方を多くの人に届けられたらと思います。



い」のち、徳川家と豊臣秀頼の板挟みとなり、最後は歴史の表舞台から去っていくという……。多くの大乱で活躍した人ですから、滅ぶから戦場での望みもあったでしょう。悲しい末路に向かっていくからこそ、その振れ幅を最大に見せるために、全盛期の彼を躍動的に演じたいです。ドラマの今後は、「関ヶ原の戦い」に至るまでの諸将の動きが見どころになっていきますが、もう、誰がいい悪いという話ではないなと。生きるか死ぬかの世界じゃないですか。みんな、家臣や家族を守るためにギリギリの選択をしている。兼統も三成も福島も、思いは同じなんです。それほど知名度の高くない武将だからこそ、伝えたいですね。織田信長、上杉謙信、豊臣秀吉といったカリスマたちの陰で、多くの武将が必死で生き、その中に福島がいたことを。僕にとって俳優業は、自分が出力したものを外に広げていくイメージがあります。いかに遠くの人に届けるかに醍醐味を感じるのです。対極にあるのが気象予報士の仕事で、はるか彼方から情報を収集する作業なんです。バラエティー番組は、自分を

いしはら・よしずみ

1962年生まれ、神奈川県出身。82年、映画「凶弾」でデビュー。以後、テレビ「太陽にほえろ！」など、俳優として多くの作品で活躍するほか、そのキャラクターを活かして多くのバラエティー番組に出演。また、気象予報士資格取得後はウェザーキャスターも務めるなど活動の場は広く多彩。NHKでは「どんと晴れ」「鞍馬天狗」などで好演。大河ドラマは「太平記」「義経」に続いて3作目。